

## 推 奨 品 種

### ハウス夏秋どり用完熟系トマト品種「桃太郎8」

(野菜花き部・環境部・南部分場)

- 1 来 歴 平成3年「T108」の試作番号で、全国の萎ちょう病(J2)の発生がみられる産地を中心に試作されてきた。平成5年「桃太郎8」として発表された。
- 2 特性の概要
  - 1) 「桃太郎」に比較して、草丈が高く、開花の進みもやや早い。また、茎径は「桃太郎」より細い。
  - 2) 着果数は「桃太郎」に比較して安定して多い。
  - 3) 良果収量は「桃太郎」より高い。また、標準施肥(元肥N-12kg/10a)ではM級以上の上位規格割合は低く、やや小玉であるが、元肥を25%増施(N-15kg/10a)した場合、良果収量は増加し、一果平均重も重くなる。
  - 4) 果型は「桃太郎」よりやや扁平で、果色・花痕部の大きさ・色回り等はほぼ同等である。糖度は「桃太郎」よりやや高い傾向であるが、酸度は同程度である。また、果実硬度、食味は「桃太郎」と同等である。
  - 5) 障害果の発生程度は「桃太郎」並であるが、チャック果が多く、裂果の発生は少ない。
  - 6) 萎ちょう病(J<sub>2</sub>)に対して、高い抵抗性をもつ。
- 3 品種の育成元 タキイ種苗
- 4 推奨品種に採用したい理由

現在、雨よけ栽培用品種として完熟系品種「桃太郎」が広く使用されている。同品種は定植～生育初期の吸肥力が強く草勢維持管理が困難であること、また、中段花房の着果が不安定であること等栽培管理に難しさがある。今回の「桃太郎8」は生育が過繁茂となりにくく、また、各花房の着果も安定しており、「桃太郎」の欠点を十分カバーできる品種と思われる。さらに、最近県内でも土壌病害の萎ちょう病(J2)が発生し、問題化されつつあるが、「桃太郎8」は同病に対して抵抗性を有している。以上の理由から、推奨品種として採用したい。
- 5 適応地域
  - 1) 適応地域 県下全域
  - 2) 適応作型 雨よけ普通栽培、雨よけ抑制栽培

## 6 栽培上の留意点

- 1) 「桃太郎8」は、「桃太郎」に比較すると着果数が多く、小玉傾向なので、第1～3花房の着果数を制限する必要がある。花房当たり3～4果に着果制限することにより、果重が増し、良果収量も向上する。また、第4花房以降は4果を目安に摘果する。
- 2) 「桃太郎」に比較して草勢が旺盛となりにくい傾向があり、生育後半での草勢低下が懸念される。  
このため、元肥の施用量は「桃太郎」より2～3割程度多くし、また、追肥は遅れないよう適宜行う。
- 3) 特に、肥沃地に適する品種であるため、根群の発達を促す深層土壌改良の励行、良質有機物の多投等、基本技術を順守する。
- 4) 青枯病に対しては、桃太郎よりやや強い傾向であるが、完全な抵抗性はないので発生ほ場では、TMV抵抗性因子(Tm-2a型)の同じ台木品種を利用した接ぎ木栽培を行う。

## 7 試験成績

### 1) 収量

品種名		良果		左比 (%)	総収量 (kg/a)	良果一果平均重(g)
		a 当り個数	重量(kg/a)			
H	(対)桃太郎	3,641	731.8	100	1,404	201
5	桃太郎8	4,006	737.1	101	1,507	184
H	(対)桃太郎	1,716	352.9	100	740	206
6	桃太郎8	2,253	421.3	119	899	187

### 施肥量と果重、収量 (平成6年)

区名	良果		左比 (%)	総収量 (kg/a)	良果一果平均重(g)
	a 当り個数	重量(kg/a)			
①標肥	2,253	421.3	100	899.4	187
②多肥	2,508	484.7	115	960.0	193
③少肥	2,247	425.2	101	883.6	189

注)①標肥: N-1.2+1.5    ②多肥: N-1.5+1.5    ③少肥: N-1.0+1.5

### 摘果の程度と果重、収量 (平成6年)

区名	良果		左比 (%)	総収量 (kg/a)	良果一果平均重(g)
	a 当り個数	重量(kg/a)			
①慣行	2,253	421.3	100	899.4	187
②強摘果	1,840	350.1	83	842.9	190
③弱摘果	2,112	411.8	98	894.1	195

注)①慣行: 4果着果(1～3花房)    ②強摘果: 2果着果(1～3花房)  
③弱摘果: 3果着果(1～3花房)

【摘要】「桃太郎」に比較して良果収量が同等～高い。一果平均重は「桃太郎」より低い。ただし、多肥栽培とした場合には良果収量が増加し、一果平均重も重くなる。第1～3花房を2果に着果制限した場合、一果平均重は重くなるが良果収量は低下する。3果に制限した場合、4果制限と良果収量が同程度であり、一果平均重は向上する。